



じとぜんひろば

No.70 2010年(平成22年)1月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会

障害を持つ事との絆

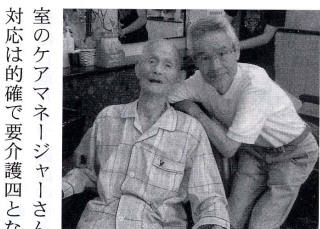
桃山町内会 徳政 宏一

私は数年前交通事故で頸椎損傷となり車いすで生活しています。胸から下は麻痺してしまいましたが、幸い手が使えますので、車いすを自分の手で駆動することが出来ます。今では車いすマラソン競技で西日本の大会を中心に出場しています。

こういう私を頑張る息子として喜びながら、交通事故で中途障害となってしまう息子として悲しみながら両方の心で見ているのは母です。母は：こんな息子の姿を見るのも本音はしんどいと思います。



レースに参加した私



10月、父と行った散髪屋さんで

室のケアマネージャーさんの対応は的確で要介護四となり

新しい年を迎えて皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします

『母(マ)への思い』

昨年六月国際ピアノコンクールで優勝した全盲のピアニスト辻井信行さんが、「もし一日、目が見えたら何をしたいですか?」と言う問いに「お母さんの顔が見たい」と語った言葉に感動を覚えた方は多いと思います。そこで、当「じとぜんひろば」でも広く地域の皆様に標記のテーマで募ったところ次の方々から寄稿いただきました。

父への思い

野坂町内会 藤咲 俊昭

明治四十四年生まれ九十八歳の父が柳井市にあるJA周東総合病院に肺炎で入院し、治療が奏功して「住み慣れた家で過ごしたい」との本人・家族の希望がかなない退院しました。その際の病院地域連携

母の想い出

堀新町町内会 林 忠正

母は八九歳で亡くなりましたが、往年は元気ものでありました。父が何かと病弱でありましたのでその分、母が土木業とか養蚕をしながら生計を支えておりました。その母も弟夫婦と生計をいっしょにするようになり、内孫の成長と畑仕事を励みとして毎日、新聞を隅々まで見るのが日課のようでありました。六年前ぐらいから肺に水が

ン」と、きれいな鈴の音が聞こえて来ました。見ると小学生三・四年生の女の子供たちがお参りに来ていました。その時「アーツ」という小さな叫び声がありました。不思議に思った仙人が覗いて見ると、鈴が真つ二つに割れているではありませんか。子供らは困り果て今にも泣き出しそうな顔をして、小さな頭を寄せて何か相談していました。

「親に言ったら叱られる!」学校に言っても叱られそう!」このお堂は地御前史跡めぐりにも案内されている「水子地藏さん」です。大勢の方々が参りするから、きつと見つかつてしまう。知らぬふりも出来ない、どうしよう、どうしよう!と、女の子たちは小さな胸を痛め、悲しそうに涙ぐんで、話し合っていました。話がまとまったのでした。公民館に行きお参りせず、年かきの女の子は「力を入れたら鈴が壊れちゃったの」と、うなだれ小さな声で言いました。館長さんから町内会長さんへ報告され、地域の人たちが元通り「カランコン」と美しい音色を響かせ、皆様のお参りを待っています。女の

中谷 満さんを偲んで

堀中町 林 武一

昨年九月に前地御前長寿連合会会長の中谷さんが亡くなり、何とも淋しくなりました。中谷さんほど多くの団体の会長を務め社会の為に尽くされた方も少ないのではないのでしょうか。戦時中は、海軍に入り水雷学校を卒業して駆逐艦の乗務員となり、戦争終盤の(特攻大和) 出撃に参加されたが無事帰港し、終戦まで戦い抜いた強運の母艦(駆逐艦雪風)は有名で、「雪風は沈まず」として本や映画にもなりました。中谷さんが、長年に亘ってボランティア活動ができたのは、八年間の海軍生活で培われた強靱な精神力と体力によるものだと思います。

地御前電停前歩道が拡幅される

この歩道は児童の通学道であり、予ねてより地域住民の強い要望であった前歩道の拡幅が、関係各位のご理解・ご協力によりこの度工事が完了しました。

コ推協では、主として広報部で活躍され、また公民館活動でも長く活躍されました。中谷さんは、常に積極的で継続的であり、新しいことにも挑戦し、困難なことも勇気を持って立ち向かいそれを乗り越えてこられました。中谷さんの永年に亘る功績に敬意を払うとともに、心から哀悼の意を表します。

新春懇談会のお知らせ

ー 地域の皆様ふるってご参加ください ー

と き 1月7日(木) 18:30~20:30
 と こ 地御前公民館 講堂
 会 費 2,000円(当日徴収)
 申込締切 1月5日(火)
 主 催 地御前コ推協



児童・父兄・関係者による完成式

編集後記

▼広島県知事に地元出身の湯崎英彦氏が就任、おおいに期待したい。湯崎知事は四歳まで地御前で育ち、いわば地御前っ子、四十四歳の若さで難原に向かつて挑戦して欲しい。原稿にたよらず、自らの声で発信して欲しい。

▼今は南国にいてであろうツバメが、毎年春になると帰ってきて我が家の軒下に巣を構える。やがて数羽の雛の誕生するまで休むことなくただひたすらにエサを求めて飛び回る。それだけがツバメの生きている証に思える。それに付け、家庭内暴力、子育て放棄の報道の多いこと。人間はいつから自己中心、自分勝手な生き物になつてきたのかと思うこの頃です。今号に掲載されている、お父さんやお母さんのように、いつまでも心のなかに生き続けている親になりました。

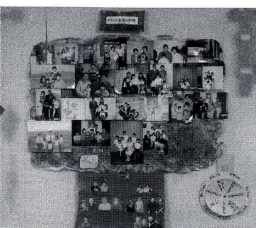
▼テーマ文の母(父)への思いは、父の方が書き易かったようである。家庭の日常を守る母に対して、変化の多い社会の姿を写してきたからであろうか。男親として振り返ると反省しきれない思いである。収入は全部使っているからと、子育て、地域との付き合いは一切母親任せ。子どもの学校(PTA役員、参観日、卒業式)。習い事、発表会、受験先への同伴等々。母親へは感謝するのみである。

たまる病気になる、水を抜くために入院をすることもありました。入院していても畑のことが気になるようでそのことが、回復の為のこやしのようでありました。しかし、今年の一月に入院した際はさすがに厳しい状況でした。周りのものに大切にされ幸せな最後であったと思います。

「家族の木」

扇岡町内会 梅林 潤

家の居間には十年前から木がある。大きな模造紙に自分たちで描いた「家族の木」だ。枝葉には、婚姻期から五人の子どもがいる現在までの毎年の家族写真が貼ってある。幹には私たち夫婦からそれぞれの曾祖父父母に至る写真や名前を家系図状に貼った。



家族の木

夫を亡くすも義祖母は三人の息子をみな大学まで出した。九五歳になるもう一方の義祖父は巡洋艦青葉の乗員だった。私の祖父父母は終戦時に四人の子どもを連れて大連から引き揚げてきた経験を持つ。歴史には名を残すこともないごく普通の人たちが、私には必須の存在である偉人たちに。私の父は若い頃から先祖を大切にし、家族歴史記録のために除籍謄本やお寺の過去帳の情報を集めていた。



梅林家の一家団欒

昔、祖母の家の仏間に曾祖父の写真が掛けてあった事を思い出して作った。眺めていると謙虚な気持ちになる。曾祖父は萬屋を営む儉約家だったが、持っていた株は戦争で紙切れ同然になった。妻の祖父は南太平洋の島で戦死した。父の父は三十三歳で胸を患って死んだ。呉の海軍工廠で病を得て故郷に帰り、夏の真盛りで養生をむしり若くして果てた。私が四歳の年である。当時（戦前）は体力に自信があれば兵隊にとられるよりはと田舎の多くの若者が徴用工に志願したと聞く。私の父も弱い体でなかったと考えた。当然心身が耐えられなかったようだ。職場は製図で家にまで仕事をもち帰り図面にとらめつ

生かされて

浜之町町内会 吉本 則昭

パソコン好きの私も、無料の系図探求ソフトで家族歴史記録作りにスイッチが入った。居間に飾られた「家族の木」は、私たちが幸福であることを思い起こさせ、幸せが来た方向に心を向かわせてくれる。この木は、何組もの夫婦の手で日照り続きの夏や凍える冬を乗り越えてきたのだ。木には土も日光も水も必要だ。これらも妻と力を合わせて育て、ずっと実を結ばせ続けてゆきたい。感謝の気持ちで思う「家族の木」である。

父への思い

地御前郵便局 尾本 政浩

昨年の四月、この地御前の郵便局で仕事をさせていた。くこととなりましたが、私の父は、その年の七月、奇しくもこの地御前（丁A総合病院）で他界した。父は三十五年前に故郷の山口（大島）で交通事故に遭い、下肢が不自由になりながらも私と弟を育ててくれました。

口数の少ない父でしたが六年前に大病を患い、私の住居に近いということでの総合病院にお世話になり奇跡的に体調も回復し、入退院の繰り返しでしたが、久しぶりに父を身近に感じた一時でした。最後までこれといった親孝行はできませんでしたが、偶然にも私がこの地で仕事をすることとなり、最期は父も安心して旅立てたのかな、という思いがしています。

父の思い出

堀之町町内会 瀬良 泰邦

父は、釣りが大好きで、毎

資源ゴミの回収・売却と自主防災会について

地御前町内会連絡協議会

会長 千原 保仁

日頃から町内会事業に対し、ご理解とご協力をいただき有難うございます。さて、「資源ゴミの回収・売却、そして売却益を自主防災費用に当てよう」との事業を始めました。今年六月から地御前北地区、七月から全体に拡がり、十一月末、地御前三〇町内会中二九町内会内で取り組んでいた。応分の売却益が還元されております。今後、資源ゴミ回収・売却を更に推進し自主防災費用の確保にご協力をお願いいたします。大規模災害が発生した時は、公的機関は広範囲な災害に対応するため、一地域に対応する救済等は困難な状況が想定される時です。大規模災害発生時の対応は、自助・7・相助・2・公助・1と言われています。自主防災会活動により、災害発生時には迅速かつ的確な対応が出来るようにする。地御前地区自主防災会（仮称）は、今年度

火災報知器の設置について

ご承知の通りこの度廿日市市条例により住宅用火災報知器の設置が速くとも平成二三年五月末日までに完了するよう定められました。

当地区においては地御前地区火災報知器を設置する会（代表 重富欣治氏）を発足、各地区で説明会を実施し、各町内会長さんの協力を得て、地区全体で単独型一一五〇個、連動型二三セツト等設置完了しました。

内に設立する予定です。また、各町内会の自主防災会の立ち上げは、来年度以降、設立可能な町内会から順次取り組んでいた計画です。町内会会員皆様のご協力をよろしく願います。

第22回スポーツレクリエーション祭

スボレクみやぎ二〇〇九

地御前インディアカクラブ

部長 石本久美子

この度、十月十七日二十日まで開催されたスボレクみやぎで二六競技ある中、インディアカの部に参加してきました。全国都道府県から各々チームずつしか出場で



出場選手のみなさん

地御前ものがたり 仙人の独り言

《作・わかな》

寒い冬が過ぎて。花の咲く春がやって来ました。極楽寺の山の上から下界を覗くと、なんと西の方角に梅の花が咲いているではありませんか。早速、仙人は雲を呼び、雲に乗って花見と洒落こみました。あつと言う間に、神賀の梅の木の上に到着しました。しばらくは甘酸っぱい梅の香りに包まれ、美しい花に恍惚として見とれていました。すると、下のお堂から「カラン、コロ

特集 地御前に生まれ育った若宮 悟氏が「昔の思い出」として冊子にまとめられました。郷土史として後世に残す貴重な資料です、数回にわたり別刷として連載いたします。

昔の思い出

胡町 若宮 悟

当時地御前は広島縣佐伯郡地御前村と言っていました。

昭和十(一九三五)年四月 地御前尋常高等小学校入学

当時の校舎は大正十二年に地御前村民の自発的な寄付十

万円で新築された木造校舎。小僻村に不似合いな程ハイカラな青ペンキ塗りの大講堂と二十五の教室を有する二階建ての素晴らしい小学校で郡内でも有数の建物であった。

地御前村が、明治の初め貧困のどん底にあった頃、ハワイへの移民の話があり明治二十年代から三十年頃にかけて二〇〇、三〇〇人の人が出稼ぎに行き、稼いだお金を送金して来るようになり裕福な村へと変わった。そしてアメリカ村と言われるようになった。

私達が小学校のころ地御前の人口は三千人余りいたと思いますが、当時、海外に出ている人(ハワイ以外に出ている人も含め)が皆帰って来たら人口

が倍になると聞いていました。



写真① 私達が学んだ校舎。1階に職員室 2階は講堂



写真② 当時の正門

服装

ゴム靴で靴下はなく特に冬は今とは違いよく雪が降り、また道路は舗装されていないのでべたべた道で、丁度、靴の中に冷たい泥水が入り冷たかった。服は今と同じ学生服ですが夏・冬を通し半ズボンでした。なかには冬になると長いズボンをはいっている人もいて、うらやましかったです。

小遣い

時々一銭を貰う。

買える物は、マープロ、パッチン(二枚に十枚の絵が印刷されていて、切り離して使う、絵は関取の写真が多かった)、食べるものはテッポポンドマ(飴玉)二個、小さい四角なチョコレート二、アイスキャンデー一本、ニッケイ東など菓子の種類も少なかった。グリコのおまけ付きキャラメルは十個入りが五銭、二十個入りが十銭でなかなか買って貰えなかった。

『おかげんさん』や『馬とばし』の日は五銭か十銭の小遣いで、わた菓子、ミリンカスとか、それに今の文庫本位の大きさの本で『猿飛佐助』『霧隠才蔵』などがありよく買って読んだものです。太陽で焼き付ける写真機、百連発の鉄砲等は十五銭以上で高く買ってなかった。

日常の遊び

プロ(ビー玉)、コマ回しなど。また自分で竹馬、竹トンボ、水鉄砲、紙鉄砲、杉鉄砲、など作ったり、自転車、車輪、樽の竹の輪、金の輪など廻したり、馬のり、兵隊ごっこ(鉄砲とか剣は自分で作る)などして遊んだ。女の子はオジャミ、アヤトリ

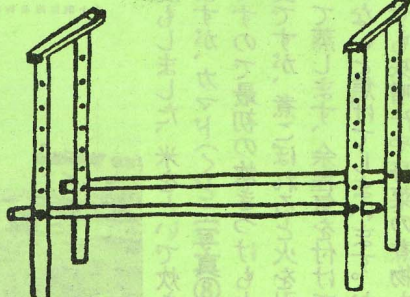
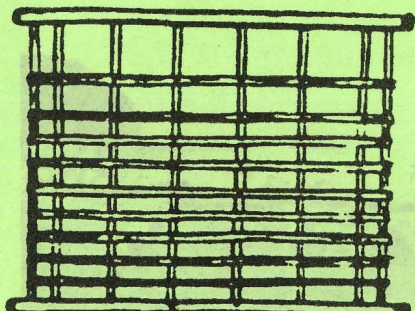


写真③ 兵隊ごっこの風景

(糸とり)などをしていた。

農繁期には麦わらでホタルかごを編み、夏は地御前海水浴場で泳いで遊んだ。また、管絃祭の翌日泳ぎに行くと言紋船に投げた賽銭が海に落ちていてよく拾ったものだ、田屋に住んでいる友達に近いので、朝早くから行くと沢山拾えたそうです。

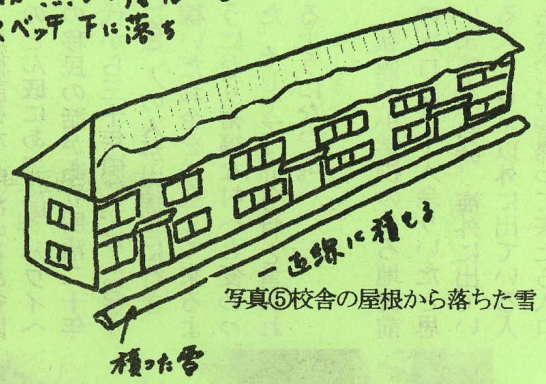
学校では 体操の時間には、



写真④ ロクボクと平行棒

跳び箱・鉄棒・棒のぼり・ロクボク・平行棒(写真④)・相撲などがあつた。運動会では、いろんな競技があり、一番から三番まではリボン(赤・青・黄の布切れで作ったリボンにピンが付いている)が貰え、胸に着けていたが、沢山付けている人を見ると自分もほしくなり、頑張ったものです。冬は当時、雪もよく降り、5〜7cm位積もることはよくあ

日が照ると屋根の雪が
スベッ下り落ち



り、日が当たり出すと、校舎の屋根から雪が滑り落ち、校庭に一直線に積もるので竹でソリを作り、皆が両方から手を引っ張って滑ったりした(写真⑤)。学校のすぐ裏が桃山で、斜面を滑ったり、土を掘ると水晶が出てきたりした。

小学校 一年生の時は男女共学で、二年生からは男女別々のクラス分けとなる。私達のクラスは多く七十三名で、2クラスあった。昼は給食などではなく、みんな家に食事に帰っていた。阿品の人は遠いので弁当を持ってきて、おかずは野菜などを持ってきて父兄が味噌汁など作っていた。

冬はストーブなどではなく教室の真ん中に1m角位の火鉢が置いてあり炭火がおこされ

ていた。

授業の内容は一年生では修身(道徳・読方(国語・書方(習字)・綴方(作文・算術(算数)・図画・唱歌(音楽)・体操・手工(工作)、4年生になると理科、5年生になると国史(歴史)・地理が増えていった。宿題はあったが余り多く無かったように思う。

授業時間の初めと終わりに上級生で決められた人が、鐘(写真⑧)を鳴らして各階を廻っていた。当時今のようなチャイムは無かった。



写真⑧ 鐘

先生は授業が始まると教科書に竹の「根ブチ」を持って教室に入ってきた。騒いだり、悪いことをするとその「根ブチ」で叩かれた。

トイレは屋外に別棟で2棟あり、今のような水洗式ではなく、汲み取り式であった。

掃除は教室・廊下共に雑巾掛けをし、校庭を始め大蔵神社・地御前神社の境内まで掃除をしていた。地御前神社の掃除で

は床の下を掃除すると、よく賽銭の一銭が落ちていたものだ。校庭の掃除中に、梅の木にホウキを投げ梅を落としていたところを先生に見つかり、皆が暗くなるまでそこに立たされた事もあった。

学校では、今『光の園』がある一帯を、村が村民の協力を得て開墾し『共栄農園』を作った(写真⑦)。小学生もその開墾を手伝い、一部が学校農園として割り当てがあり、授業時間中によく農作業に行きました。



写真⑦ 共栄農園の開墾風景

小学校のモットーは『先ず健康』十二月十四日(四十七士討ち入りの日)は広島国泰寺まで往復歩いた。遠足もチヤス

牧場、桜尾城址、廿日市桂公園など、みんな歩いて行っていました。六年生の時は宮内一友和・仙酔峠・原を通って、地御前

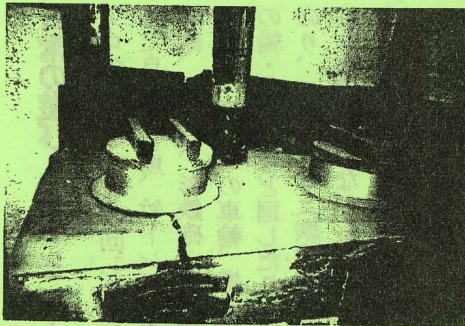
に着く頃は暗くなって居たことも有りました。『神能山』

『神能山』標高167m。頂上に一本の大きな老松があり、遠くから見ると筆という字に見えたことから、筆松と呼ばれていた。地御前に帰る漁船の目標にもなった。

にも体操の時間以外に、遊びやキノコ採りでよく登りました。祭日は朝、学校に出て記念式典が

あり、式が終わると帰っていた。正月は式の後全員ミカン(村の有志から寄贈されたもの)を貰って帰った。

家の手伝い 麦刈りや田植えの頃には、農繁期といって学校も休みとなり、麦刈りや田植えを手伝ったり、弟や妹の守をさせられました。また、食事の支



写真⑧ 昔のカマド(くど)

度もしました。米をいいで炊きますが、カマド(くど)(写真⑧)です。で最初の炊きつけも大変ですが、煮こぼれると火を引いて蒸します、余程気を付けていないと焦げてしまいます。おかずも味噌汁や野菜の煮物も作っていました。

貝堀りや焚物取もよくさせられました。貝堀りは、主に地御前神社の前で掘りましたが、アサリの他にオウ貝やマテ貝も沢山いて、上手な人は、オウ貝やマテ貝の穴の形で見分けし、そればかり掘る人もいました。時々ハマグリやシヤコも採れ、沖山(写真⑨)の向こう側の岩場に行くと、大きなオウ貝(十五cm位)も居ました。

地御前地区コミュニティ推進協議会



(写真⑨) 右に突き出た山が沖山。左に見える島は御幣岩と言いま潮がみちてくると隠れていた。

続く